

1 別紙標準様式（第7条関係） 会 議 録

会 議 の 名 称	第33期 第5回社会教育委員会会議
開 催 日 時	平成26年11月6日(木) 午後 2時00分から 午後 3時34分まで
開 催 場 所	輝きプラザきらら 3階 教育委員会室
出 席 者	加堂裕規議長、石塚美穂副議長、國光利彦委員、 志保田務委員、嶋田雅人委員、中村奈緒美委員、 西田スマコ委員、服部寛治委員
欠 席 者	青野明子委員、松浦清委員、森山孝一老委員
案 件 名	1. 高齢化社会における社会教育について 2. その他
提出された資料等の 名 称	・次第 ・資料1. 高齢化社会における社会教育について ・資料2. 第33期社会教育委員の社会教育施設見学会 主 ご意見 ・資料3. 高齢化社会の現状と問題点
決 定 事 項	
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公 表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	社会教育部社会教育課

審 議 内 容

加堂議長      それでは、ただいまから第33期第5回枚方市社会教育委員会議  
を開催します。  
皆様、ご多忙の中ご出席いただきましてありがとうございます。  
では早速ですけれども、事務局より出席状況とか資料の確認をお  
願いします。

事 務 局      本日の委員の出席状況でございますが、委員11人中現在6人の  
方が出席されておられます。先ほど申し上げましたとおり國光委員  
につきましては、遅れるご連絡をいただいております。枚方市社会  
教育委員会議運営要綱第5条により、過半数の出席がございますの  
で、会議が成立していることをご報告いたします。  
では、まず本日の会議の次第に続きまして、資料1「高齢化社会  
における社会教育について」、資料2「第33期社会教育委員の社  
会教育施設見学 主なご意見」、資料3「高齢化社会の現状と問題  
点」、以上でございます。資料の過不足はございませんでしょうか。

加堂議長      それでは、次第に従いまして進めたいと思います。きょうはこの  
期の5回目の会議になりますけれども、最初に今年度のテーマと掲  
げました「高齢化社会における社会教育について」と、そういう最  
初のテーマに戻って皆様のご協力をお願いいたします。  
それでは、最初に案件の1ですけれども、そのうちの①、②、③  
に当たるところ、本テーマにつきまして考えた経過、どういう展望  
で話題を議論するかにつきましては、事務局の方から資料の説明を  
お願いいたします。

事 務 局      それでは、資料1をごらんください。  
最初の1、これまでの経過ですが、平成26年2月に開催いた  
だきました第33期第2回社会教育委員会議におきまして、少子高  
齢化が進行する社会において、本市の社会教育行政が果たすべき役  
割等について明らかにしていく必要があるということで、高齢化社  
会における社会教育を第33期社会教育委員会議の検討テーマと  
して選択いただきました。平成26年5月には、検討に先立ち、本  
市の社会教育現場の状況を知るため、市内の社会教育施設等の見学  
に行っていました。平成26年7月の第3回社会教育委員会  
議では、施設見学に参加いただいた委員の皆様のほうから、施設見  
学を行った感想を伺いました。以上がこれまでの経過ですが、ここ  
で、資料2の「第33期社会教育委員の社会教育見学会 主なご意  
見」をごらんください。

資料2は、社会教育施設等の見学後に開催いただきました第3回の社会教育委員会議で、委員の皆様からいただきましたご意見のまとめでございます。野外活動センターにつきましては、立派な施設であるにもかかわらず、進入路の問題を含め、使い勝手に課題があり、何らかの対策が必要とのご意見を多くいただきました。旧田中家鋳物民俗資料館につきましては、資料館の場所や管理運営体制が数年で変わっていることに対するご意見や、実物を見ることが子どもの教育に役立つこと、さまざまな企画を行って稼働率を上げようとしていることなどに対して、ご意見をいただきました。菅原図書館と菅原生涯学習市民センターにつきましては、利用者が多く、施設全体として手狭なイメージを持たれたこと、図書館において利用者が本を手にとりたくなるような工夫をしていたことなどのご意見をいただきました。総合スポーツセンターにつきましては、駐車場の数が少ないという課題があるものの、高齢者の利用も多く、また保育付きで若いお母さんがスポーツできるよう配慮されている点や、陸上競技場は子どもたちでも利用できる安い料金設定などについて、評価をするご意見をいただきました。その他、全体的なことに関しまして、運営に関しては、市の直営がよいのではないかといったご意見や、枚方市にはいろいろな施設があり、もっと利用を促すPRを行うべきといったご意見、各施設で働くスタッフの熱心さに関心したといったご意見をいただきました。

それでは、資料1に戻っていただきまして、2の検討に当たっての考え方のところをごらんください。よろしいでしょうか。

ここでは、今期の社会教育委員会議の検討のテーマである高齢化社会における社会教育を検討していくに当たっての考え方について、事務局からご提案をさせていただいております。

一般に65歳以上の人口が総人口に占める割合（高齢化率）が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会、21%を超えると超高齢社会と分類されるようですが、平成25年度の本市の高齢化率は23.0%、これは国全体では25.1%ですけれども、先ほどの分類で申しますと、既に超高齢社会に分類される状況となっております。今後の人口推計を見ても、平成50年度には、本市の高齢化率は33.9%にまで達する見込みでございます。本市においては、高齢化とともに少子化の傾向も見られまして、平成25年度の本市の人口に占める14歳以下の年少人口の比率は14.0%で、平成50年度には10.8%になると予測されております。したがって、現在枚方市民は少子高齢化が進行する社会に暮らしているということになります。

このように、高齢化社会の問題は本市においては少子化社会の問題でもございまして、また少子化は同時に人口減少と生産年齢人口

(15歳から64歳まで)の減少をもたらします。

したがって、高齢化社会における社会教育を検討するに際しましては、その対象を高齢者に限定することではなく、高齢化という現象が進行する社会の中で、子どもから高齢者に至る全ての世代を対象として、どのような社会教育行政を今後行っていくべきかを検討する必要があるのではないかと考えております。

そのような状況の中で、現在本市の社会教育行政が担っている内容につきましては5点ございます。

1つは、社会教育における成人教育で、その対象となる教育分野につきましては、人が地域で生活するのに必要な基礎的な知識や技術の教育としております。2つ目が文化財保護の啓発と歴史の連携でございます。3つ目が文化活動の育成、4つ目がスポーツ振興、5つ目が図書館サービスとなっております。

これらの内容につきましては、平成18年に公民館を生涯学習市民センターに改変し、生涯学習推進を担う部署を総合行政部門である市長部局に設置するという生涯学習推進体制の再編のときに、本市における社会教育行政の役割を生涯学習推進の一翼としてとらえ、学習する主体を育てる基礎的な部分を担うと定めたことを踏まえて決定したものでございまして、当初、青少年教育も社会教育行政の範疇に含まれておりましたが、平成24年度の機構改革の際に、青少年教育が総合行政部門の所管となり、現在に至っております。

高齢化社会における社会教育のあり方を検討するに当たりましては、より効果的な社会教育行政を進める観点から、この生涯学習推進体制の枠組みについても検討を加えていただき、少子高齢化が進行する社会の中で、市民誰もが生き生きと生きられる社会の構築に向けて、本市の社会教育が担うべき役割や今後進むべき方向を、大きな視点から明らかにしていただきたいと考えております。

続いて、3の今後の検討の進め方でございますが、今後の検討の進め方については、目安として4回にわたりご検討いただくことを想定しております。第1回は本日でございますが、本日はただいまご説明いたしました議論の方向について、共有化を図っていただくとともに、高齢化社会が原因となって生み出されるさまざまな現象や問題点について、各委員会からご意見を伺い、ご意見をまとめていただきたいと思っております。第2回は平成26年度内に開催いただきたいと考えておりますけれども、第1回の会議の内容をご確認いただくとともに、高齢化社会の問題点の解決に向けて、社会教育行政が果たすべき役割、課題について、各委員のご意見を伺い、まとめを行っていただきたいと思っております。3回目は、来年の4月か5月ごろを予定しておりますけれども、第2回会議の内容を

ご確認いただき、さらに設定した課題の解決に向けた対応策について、各委員のご意見を伺い、そのまとめを行っていただきたいと考えております。第4回は来年6月ごろの予定でございまして、意見書のとりまとめを行っていただきたいと考えております。会議では、それまでの議論の経過を再確認いただいた上で、社会教育委員会会議として、教育委員会に提言する意見書のとりまとめを行っていただきたいと思っております。以上、資料1の高齢化社会における社会教育のご説明でございます。

加堂議長

ありがとうございました。ただいま事務局から説明がありました、高齢化社会における社会教育について、これまでの経緯、これからの検討の考え方の視点、具体的にどういうふうにして検討を進めていくかにつきまして説明がありました。資料1の説明につきましてこれでよろしいでしょうか。あるいは具体的な皆さんのご意見、ご質問をお願いしたいと思います。

志保田委員

よくまとまった提案だと思いますが、表の下のほうに、現在本市の社会教育行政が担っている内容は次の5点であるとして書いてありますね。これは間違いないことだろうと思いますが、裏に回って3番目、文化活動の育成、スポーツ振興、図書館サービス、この3つはそれぞれ重要で、関係があると思います。できることなら文化活動と図書館サービスというのを隣合わせになるような番号にされたらどうかと思います。というのは、今度、図書館の機構の変更で三位一体のような指定管理者制度を取り入れたということは、システムとしてそれはそれなりなことなんですけれども、それを生かしていくには、これらの機構が一緒に働くような観念が必要かと思えます。したがって、文化施設と図書館サービスをくっつけておいたほうが、あるいは1番の成人教育と文化活動と図書館サービスを3つ一緒にされて、そこいらで三位一体の活動をトータルしていかれるという方向がよろしいのではないかと私は思うんですが。既定の順番があるということでしたから逆らいたしませんけれども、そのほうが新たにお立てになりました三位一体の活動をしていくために指定管理者制度を導入するという考え方に一応は沿うのではないかと考えますが、いかがでございましょうか。

それからもう1点は、2ページの裏側の紙の、3、4、5が終わった後の市の体制でございまして、平成18年度から組織変えになって、生涯学習推進の一翼としてとらえるというのが、社会教育行政におけるとらえ方として表現されていますが、多少苦しいといえますか、市長部局で起こってきた変化の影響を受けているような気がするんですね。それで、事務局のご発言にありましたように、こ

の体制についても考え直す必要があるのだったら考え直したらいいということで言わせていただきますと、市長部局、市長におけるトータルの生涯学習的な物の把握、必要性は、例えば外国人とかその他の市全体のサービスの中で捉えるべき問題がありますので、市長のもとでの組織の中にそういうのがあってもいいとは思いますが、すけれども、できるだけ生涯学習という教育、もとは社会教育の一端だったんですが、教育に関することはやはり教育委員会のほうで重点的に引き受けていただく方向で統合していただいたらいいのではないかと、その2点を提案ということにしたいんですが。

以上です。

加堂議長           今の点につきましてどなたか。

事務局           ありがとうございます。まず1点目でございますけれども、番号1から5まで並んでいます。これは今の我々の機構と申しますか、そこで単純に並べさせていただいたということでございまして、ここについては、考え方としては、先生がおっしゃっていただきましたように、今後そういう観点でご議論いただくということについて、我々としては拒むところではございません。ぜひそういう形でご議論いただけたらと思っております。今申し上げましたように、あくまでも今日は資料として機構順に並べさせていただいたということで、ご理解をいただきたいと思っております。

2点目につきまして、今の現状として事実をここで書かせていただいておりますけれども、今後ご議論いただく方向として、そういう観点でご意見をいただくということにつきましては、我々としては十分お聞かせいただきたいと、このように考えております。

加堂議長           今説明にもありましたね。今後、進むべき道としていろいろな意見が歓迎されるということですから、皆さん積極的にご意見お願いします。その他どうでしょうか。

志保田委員       重ねてで申しわけございませんが、資料1の表のページの下の方に、現在市の社会教育行政が担っているというところの前の部分の塊の中に、高齢化が進行する社会の中で、全ての世代を対象としてどのような社会教育行政を今後行っていくべきかを検討することが求められているということは、若年の方とかそういった方をケアすることも大事であるというご意見がほかの委員さんからありましたように、これは重要な意見だと思うんですが、これ以外に、例えば枚方の図書館が世間でわりと有名なのに、身体障害者サービスというのがあります。また、ほかに多分、外国人労働者も、コマ

ツさんなんかを中心として入ってきている可能性があると思いますね。そういったことでありますので、障害者サービス、あるいは多文化サービス、多言語、そういったことも、年齢階層だけではなくて、ジェネリックな刻みの中でも把握していくということが必要ではないかなと思います。

以上です。

加堂議長           ありがとうございます。そのほか皆さん、各委員の方どうでしょうか。指名させていただいて失礼ですけれども、服部委員、どうでしょうか。

服部委員           今の説明に対してのところ、特にどうのこうのという意見はないです。

加堂議長           これからの社会教育という割と大きなテーマだと思いますので、ここに書いていないことでありましても、ご意見を。

服部委員           私は自分の活動そのものがスポーツといかないまでもそれに近い分野でやっていますので、私自身はその辺を中心に考えていきたいと考えているんですけれども。

加堂議長           では、こういう方向でいいということですね。

服部委員           はい。

加堂議長           西田委員、どうでしょうか。

西田委員           私は高齢者の人たち対象の生涯学習で、生きがい創造学園を担当していたんですけれども、成人教育の中に入りますし、その一環の中で考えていったらいいのではないかと思います。

加堂議長           中村委員、お願いします。

中村委員           高齢化もそうですが、ここに書かれています少子化は、もう学校に即響くことでもあるので。ただ、それに伴って、就労のことも含めて考えていくことも視野に入れながら考えたいなと思っています。

加堂議長           副議長、いかがですか。

石塚副議長　　私はつくっていただいております進め方で結構かなと思っております。特にやはり高齢世代と少子化という問題が避けられない問題ですので、全ての世代を対象にした形で進めていったらいいかなと思います。

加堂議長　　ありがとうございました。では、今のこの提案の資料1、2、加えて皆さんからいろんな意見が出たと思いますけれども、それにつきましては、事務局から何か。

事務局　　今日は検討に当たっての考え方ということでお示しをさせていただきまして、いろいろ意見をいただきました。イメージ的には、ご意見を意見書としていただくときの冒頭の部分として、こういう形で出てくるのかなというイメージを持っていますが、今日出させていただいている分に、ただいまの、高齢者はもちろんのことですけれども、障害者サービス、多文化サービス、子育て、そして就労、そういう視点もこの中に再度入れまして、文章を整えさせていただきたいと考えております。

加堂議長　　ありがとうございました。それでよろしいでしょうか。

服部委員　　就労は、高齢者の仕事ということも含めて考えていってもいいという意味ですか。

事務局　　もちろん、そういう視点でご議論いただくということ、今おっしゃっていただいたのは、子育てと少子化対策ということの中で就労ということもおっしゃっていただきましたので、服部委員がそういう視点をもというご意見ということでしたら、そういうご意見も踏まえてということになるかと。

服部委員　　イメージとして、社会教育というのが前提にありましたので、あまりいろいろと言うのもどうかというのを、私自身が持っていたものですから、それでいいんですかという念を押したわけです。

志保田委員　　強いていえばそういう問題ですが、やはり西田委員が言われたように、高齢者とか少子化、小さい子どもの就職があるかどうかは別として、そういうのに関係したところに集中した方がいいでしょうね。だから、その子どもをみている親、そういった関係に収斂していったら、単なる職安とかそういう感じのものとは関係がないところでしていただきたいと思います。

加堂議長	<p>それでは、皆さんのご意見があったことを踏まえまして、これからの社会教育を検討するという形で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次に資料3になりますが、案件の④の高齢者社会の現状と問題点、このことについて説明をいただきまして、皆さんのご意見を聞くというふうにしたいと思っております。では、事務局の方から高齢化社会の現状についての説明をお願いします。</p>
事務局	<p>高齢化社会の現状と問題点ということで説明をさせていただきます。</p> <p>表紙をご覧ください。1番、少子高齢化社会の現状ということで、1、2、3、日本全体の現状、枚方市の現状、地域社会の現状ということで、皆さんのこれからのご検討の参考となるように、幾つか現状を挙げさせていただきました。よろしくお願いいたします。</p> <p>2として、高齢者社会の問題点ということで、一番最後のページですけれども、少子高齢化がもたらす問題点ということで、挙げさせていただいております。</p> <p>そうしましたら、1ページをお願いいたします。少子高齢化社会の現状、日本全体の現状です。</p> <p>資料1、高齢化の現状ということで、平成25年10月1日現在の日本の総人口を載せております。ラインマーカーを引いた一番上のところにあります1億2,730万人です。そのうち65歳以上の高齢者の人口は3,190万人ということで、過去最高であると記されております。総人口に占める65歳以上の人口の割合、いわゆる高齢化率というものですけれども、ラインマーカーを引いたところの一番下のところ、25.1%ということで25%を超えているということです。ちなみにその前年、平成24年10月の段階では24.1%であったということです。そして、15歳から64歳人口、生産年齢人口と言われる人口の方ですけれども、7,901万人ということで、32年ぶりに8,000万人を下回ったということがわかります。少子高齢化社会というのが確実に進行しているということがうかがえる資料だと思います。</p> <p>次、資料2をお願いいたします。高齢化の推移と将来設計です。こちらの表ですけれども、日本の総人口は平成22年度をピークに減少に転じると予想されています。こうした状況の中で、高齢化率が上昇しているという資料になります。ラインマーカーが入ったところの一番左側ですけれども、平成25年度、今に近いところ、昨年度ですが、PDFを落としたので見にくいんですが、25.4%の高齢化率であったんですけれども、高齢化率はその後も上昇を続けて、平成32年度（2024年）には29.1%、平成52年度</p>

(2040年)には36.1%、平成72年度(2060年)には39.9%、大体約2.5人に1人が65歳以上となると内閣府は推測しているということでございます。

続きまして、3ページ、資料3をごらんください。こちらは高齢世代人口の比率になります。こちらで注目していただきたいのは、折れ線グラフですけれども、こちらにもラインマーカーを入れています。65歳以上人口を15歳から64歳の生産年齢人口で支えると考えまして、平成25年度には2.6人で1人の高齢者の方を支えるということですが、平成32年には高齢者1人に対して生産年齢人口が2人、平成52年には1.5人、そして平成72年には1.3人になるということがわかる資料になっています。このことから言えるのは、高齢者の方の社会保障等を極めて少数の生産年齢人口の方で支えなければならない時代がやってくることになるかと思えます。

次、4ページですけれども、資料4、世界の高齢化率の推移ということで、ちなみに世界の中の日本の比較という視点で掲載させていただきました。日本はラインマーカーを引いてあるように、圧倒的に高齢化率が高い。諸外国と比較しても、日本は世界のどの国もこれまで経験したことの無い高齢化社会を迎えようとしているということがわかる資料かと思えます。

次に5ページですけれども、枚方市の現状を載せさせていただいております。資料5、枚方市における人口と高齢者率の推移ということで、人口の上昇は枚方市の場合は平成21年度(2009年度)をピークに減少傾向にあるのですが、65歳以上の総数というのは毎年上昇を続けておりまして、平成23年度には高齢化率が21.0%になりました。

次の6ページをお願いいたします。こちらは高齢化人口の将来推計です。これは平成29年度から平成33年度ぐらいの近い将来推計という形になっています。これを見ていただいてもわかるとおり、今後も高齢者人口並びに高齢者率の増加というものは続いていくということになって、平成27年度(2015年度)には、高齢化率が25%を超えると予想されており、市民の4人に1人が65歳以上の高齢者になる見込みであるということがわかります。

資料7ですが、それよりこちらのほうがより最近の新しいデータということになります。年齢3区分の人口推計の比率を載せました。5年ごとに刻まれているんですが、平成25年度ですけれども、高齢化率は大体23%ぐらい、子どもの率が14%ということになっているんですが、10年後の平成35年度には高齢化率が28.6%に、平成45年には30.9%と、30%を超えていくという推計がなされています。一方、ゼロ歳から14歳の比率ですが、

先ほども何度も出ていますように、少子化傾向によりまして、平成25年度では14%であるのに対し、10年後の平成35年には11.8%で、平成45年には10.8%となっていくと推計されています。

続きまして、8ページ、資料8の少子化傾向についてというところをごらんください。先ほどまでの資料を受けまして、枚方市の少子化傾向ということについても少し触れていきたいと思えます。

こちらのほうですが、年齢3区分別人口割合の推移ということで、大阪府と全国、平成22年度ですが、それと枚方市を比較したのになっています。年少人口の割合については、全国平均及び大阪府の数値よりも若干高いものの、やはり減少傾向となっております。平成22年（2010年）には13.7%と推移しております。

続きまして、資料9の少子化傾向について、2ということですが、枚方市の総人口のうち、人口、児童ともに今後は緩やかに減少が進む見込みであるということで、左側の表ですけれども、こちらは枚方市の総人口における18歳未満の人口割合の推移をあらわしたものです。そして、右側の表ですが、今後の枚方市の18歳未満の人口の推移を3世代についてあらわしたのになります。

続きまして、3番の資料10ですが、3、地域社会での現状を説明させていただきます。地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化ということに焦点を当てました。資料10、町内会、自治会への参加率の変化ということで、資料を掲載しています。こちらは1968年（昭和43年）の段階では、支部のほうでもほとんど参加しない、加入していないという方の割合が31.4%であったんですが、平成19年の調査では51.5%に増加していると。このことから、都市部における参加率というのはかなり減少しているのではないかと思います。ちなみに、こちらは全国の統計ですけれども、枚方市におきましては、自治会の加入率というの、確認させてもらったところ、平成18年度で74.5%であったんですが、平成23年度で73.8%、平成24年度で72.2%、平成25年度で71%ということでした。自治会加入率は確かに枚方市の場合には少しずつ減ってきているということですが、枚方市では活発に活動を行っている地域というの、たくさんあり、衰退という傾向については、もともと高い加入率もあわせて、必ずしも当てはまらないというのが市としての見解であります。

しかしながら、先ほどから見ていただいたとおり、少子高齢化の問題は、当市でも全国的な傾向がそれにあわせて見られるという点からも、今後そうした傾向に推移していくことも考え合わせて、今回の検討の材料という形で載せさせていただきました。

続きまして、資料11、老老介護の現状という形になるんですけども、こちらの表は要介護者などと同居をしておられる主な介護者の年齢層について載せさせていただいています。ラインマーカーを引かせていただいたところを足していただくと、男性の方は64.9%、女性では61%の方が60歳以上である。つまり、男女とも60%以上の方が、要介護者と同居しているのは60歳以上の介護者であるということをお知らせしています。

続きまして、資料の12ですけれども、核家族世帯についてと書かせていただいているんですけども、世帯構造別に見た世帯数の構成割合の年次推移ということで載せさせていただいています。ここからわかるのは、①と書いた単独世帯、それと②と書いた夫婦のみの世帯が増加傾向にあるということです。これとあわせまして、⑤と書いたところの三世帯世帯が、昭和50年には16.9%だったのが、平成22年には7.9%となって、核家族世帯も含めた少人数世帯の増加というのが傾向としてあらわれているということがわかると思います。

以上のことを踏まえまして、少子高齢化社会を迎えるに当たり、市として社会教育的アプローチから参考としてお考えをいただくために、幾つかの問題点を挙げさせていただきたいと思っています。

問題点1ですけれども、生産年齢人口が高齢者を支える割合の増加によってもたらされる、成長性の乏しい低成長時代を迎えるに当たって、今の豊かさがおびやかされるということに対する対応ということになるかと思っています。高齢者の方々が社会生活を営む上において必要な年金であるとか医療費であるとかの社会保障を、極めて少数の生産年齢人口で今後賄っていかなければならない時代がくるということについて、これ以上の生産年齢人口層の負担の拡大というものに対処するために考えていかなければならない問題ではないかと思っています。

問題点2ですが、日本の社会を根底で支えている地域コミュニティの衰退という問題です。地域社会の維持、運営の基盤ともいえるべき自治会や町内会などの参加者が不足してきています。このことにより、地域での防犯活動であるとか、自主防災活動、あるいは介護が必要な高齢者などの見守り機能といった重要な機能が低下することが懸念されるということになったと思います。

問題点3、社会生活におけるつながりの希薄化ということで、都市化、核家族化、単独世帯や夫婦のみの世帯の増加など、さまざまな要因により地域社会でのつながりというものが希薄化していると言われていています。このことに伴い、高齢者を含む支援が必要な方々や老老介護の問題など、地域社会での見守りが必要な方々への

機能が低下して、社会的孤立が顕著化するということが懸念されるのではないかと考えております。

以上、現状と問題点について簡単に説明をさせていただきました。

加堂議長

ありがとうございました。高齢化社会における日本全体の、あるいは枚方市の問題点、現状、さらに少子化あるいは地域コミュニティのいろいろな問題につきまして、網羅的な説明があったと思います。それでは、資料の説明につきまして、皆さんからのいろいろな問題点とか、あるいはご意見、ご質問をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

志保田委員

1から12までの資料は、非常に明確に現実、あるいは見通しを立てていただいております、これについては危惧すべき問題を多々含んでおりますが、提示自身は的確であると思います。結局は13ページからの、高齢化社会の問題点ということで、問題点1、2、3にとどまるか、あるいは問題点それぞれの中をもう少し充実していく必要があるかなというあたりだろうと思います。

それで、まず問題点1の中の生産年齢人口が、高齢者を支える割合の増加によりもたらされるという、そういう状態ではありますが、これにつきましては社会教育的といえますか、あるいは生涯学習的な対処から、高齢者に対しまして、技能を与えたり職業を与えたり、社会参加を促すことによって生産年齢層を逆に増やしていくことが言えるのではないかなと、私なんかの研究の中で考えております。そういうことを、小さいことではあるんですが、実行していく中において、この割合の変化に対処していくことはできるだろうと思います。

それから、問題点2、地域コミュニティの衰退ということは確かにありまして、私もいわゆる市街地に住んでおりまして、私の住んでいるマンション全体が自治会に入ることを拒否しております。ですので、餅つきであるとか盆踊りであるとか、そういったものは全く声かけもされていない状態ではありますが、そういうふうなまちの行事が必要かどうかということは別といたしまして、やはりそういう地域コミュニティというものを形成していく新たな広がりが必要ではないかと考えます。そういうまちづくりのてこになるものを、この社会教育行政の中で模索していただくとか、あるいは民生関係との提携という中で、コミュニティの形成というものを再検討していただくことはできるのではないかと考えております。

問題点の3の社会生活におけるつながりの希薄化というものは、これ自身が社会教育とさほど関係があるとは見えないんですけれ

ども、社会教育の拠点というものをしっかりしていただきますと、そこに生活のつながりを求めてやってくるということがあり得るかと思います。例えば、数少ない例で見学させていただいた菅原図書館の例ですけれども、非常に3つの階の間、また美術関係の制作のところとか、非常ににぎやかでよかったとは思いますが、何しろ手狭で、今利用している人以外がやってきて、そこで例えば緊急避難的な集まりをする。つまり避難、そういった感じの場所にまで至るということは、現在のところはされていない。そういったところに広げていっていただけたらと思うんですけれども。

以上、ざっぱくですけれども、3点についてちょっと申し上げました。

加堂議長            ありがとうございます。ほかにもどうでしょうか。

服部委員            感想みたいなもので申しわけないんですけれども、10ページのところで地域コミュニティの衰退、データとして出ているから間違いはないのでしょうかけれども、高齢者に限っていいますと、果たしてそんなに衰退しているのかなという感じはしているんですよ。地区のほうを見ている、かなりいろんな面で高齢者が活躍しておられる。朝、子どもの通学を見守ったりとか、いろいろな面において。若い人は確かに無関心かもしれないけれども、年配の方については果たしてそうなのかなと。推測ですけれども、そんな感じは持っているんです。高齢者に限ってコミュニティはどうなんだと言われると、ちょっと違うのではないかという気がする。衰退にはなっていないのと違うかなという感じはしているんですけれども。もちろん根拠はないので、データみたいなものは持っていないので。

西田委員            確かに活動されているように見えると思うんですけれども、その人たちが活動できるようにするために、多くのボランティアが支えているんです。大変な支えです。皆さん見守りで立っておられると思うんですね、高齢者の方。なかなか協力してくださる人というのは少ないです。実際は。でも少しずつ活動は増えてきていますけれども、もっとボランティア精神の育成といいますか、それを育てていかないと、なかなかそういう活動は盛り上げていくことはできないなど。きょうもボランティアの会議に出席してきましたんですけれども、まだまだボランティアという意識がもうひとつ、組織立っていないので、会議はしているけれども、何しているかわからないような状況をちょっと今日見てきて、発言させていただいたんですけれども、皆さん家庭にいて、そこから出てボランティアしようといっ

たら、なかなか組織づくりは難しいかと思うんですけれども、人数が増えていきますので、結局ボランティアですけれども、やはりボランティア活動をしようと思ったら、ちゃんとした組織づくりが必要だし、いつ誰が入ってきても、どんな活動をどういうふうにするか、そして自分だったらこういうことができるからしようとか、そういう意識がその中で感じ取れるような運営が必要だなと感じたので、ボランティア教育の啓蒙というか、教育という事業も大事だなと感じました。

以上です。

服部委員

私がピントを外れていることを言うのかもわかりませんが、例えばウォーキング、ハイキングなんかするんですけれども、ほとんど高齢者です、参加するのは。若いお母さんとかお父さんが子ども連れてという参加者はほとんど見られない。だから、逆に高齢者の人がいろんな分野で活動をしたいというか、求めているというのは、それはわかるような気がします。ちなみに、先日もウォーキング、約100人の参加があったんですけれども、40未満の人はゼロです。ほとんどが60から70以上の人です。ほかの京阪とかあいうのがやっているのを見ている、子ども連れはほとんど来ないですね。

石塚副議長

お元気な高齢者の方はすごく多いので、何か子育て世代とお元気な高齢者の方を結びつける仕掛けづくりが要るなとすごく感じています。私ももうそろそろ高齢者の仲間入りをすると思うんですけれども、心身ともにできるだけ元気な高齢者でいたいと思うと、やはり生きがいづくりが大事なのではないかと思います。たまたま私は樟葉駅前の集合住宅に住んでいるんですけれども、建って10年になりました。今の資料でも、枚方市が地域コミュニティの衰退があまり見られないということがあったんですけれども、初め子ども会しかなかったんですね。何年かたって、5年前ぐらいでしょうか、老人会ができて、子ども会の活動に老人が協力する。ですので、季節のお餅つきはもちろんのこと、豆まきのときは高齢者の方が鬼になって活動されたりしていますし、七夕ですとかクリスマス、そういう行事がどんどん増えていきまして、高齢者の方と子どもたちのコミュニケーションの場がすごく増えていっています。そうしますと、マンションでの挨拶というのが当たり前になってきて、エレベーターに乗りましたら、どこでもこんにちは、こんにちはという声が聞こえるようになりましたし、すごくいいコミュニケーションのコミュニティができているのではないかと思います。ですので、何かそういう結びつけるようなことができたならなとは思

ますけれども。

西田委員 副議長の地域はそうかも知れませんが、並木なんかもう全然、裏の人も知りませんという形になって、ひとり暮らしが多くなって空き家も出てきていますので、もうほんとうにどこを見てもひとり暮らしが多いんですね。我が家だけが二世帯で生活しているみたいで、子どもの声は一切しませんし。

石塚副議長 地域のコミュニティがよくなってきますと、防災の面にもすごく役に立ちます。あそこのお宅にはちょっと足の不自由な方が住んでいるですとか、いろんなことがわかってくるんですね。それを今、防災に役立てようというような活動になってきているんですけれども、地域のコミュニティというのはすごく大事なというのは実感しております。

西田委員 そうですね。私も退職してひとりになったとき寂しいですね。隣とか裏の人なんか全然知りませんので、声かけもしないですね。だから、仕方なくいろんなボランティア活動に出て、人とのつながりを求めているんですけれども。

加堂議長 そのほかどうでしょうか。中村委員どうでしょうか。

中村委員 地域のコミュニティの問題というところで、今防災とか子どもとお年寄りを結びつけるという話が出ていましたけれども、実際問題、今防災に関しては、地域一帯で考えていかないとどうしようもないことかなと思っています。それで、学校でも、今までは学校の中だけの避難訓練みたいな形でしていたものが、やはり地震などが起きた場合に、保護者に引き取りに来てもらわないといけない。そうしたら、緊急時の引き渡し訓練も実際にやっ払いこうと。やることによって、いろんな問題点も見えてくるし、課題も見えてくるけれども、次に一歩進めるんですね。そうした中、毎年地域では自主防災訓練とかを行われています。その中には、ほんとうに来られたら、実際はこうなのかとか、逃げてくるときには、こういうふうに来た地域の人たちはここで集まってこういうふうに来るのかとか、ものすごく一人一人にとって重要なことかなということが盛り込まれているんですけれども、周知されているわりには参加者が限定されるというところがあるので、なかなか難しいんです。けれども、一人一人が自分の問題として、(子どもにも「自分の命は自分で守る」、そんなことも言うような時代になっていますので、) そういうところで、避難所が学校ということもありますので、お年を召された方

とか、子どもが小さくて動きづらいという方とつなげられるような何かをしていかないといけないなど。それが具体的に何なのかというのがなかなか見えてこないんですけども、そういうことを目指して、今も地域の方とか自主防災の方とかと話をし、学校と地域合同の防災訓練にもっていくことで、保護者世代の人たちがやってくる。一回やってきたら、どんなものか、どれだけ重要なものかというのわかる。そこから広がっていくみたいな形で、地道ではあるけれども、そういうことも進めていく必要があるのかなとは感じています。

加堂議長 今、防災という話もありましたけれども、学校、PTA、校区の地域の方々とつながりとか行事の持ち方とかで、ほかのことでもしありましたら、ちょっと説明をお願いしたいと。

中村委員 子どもを含むような行事もあります。コミュニティ絡みで。そのときには、やはり子どもが来る。そして、その子どもを含む保護者、それからその周りの高齢者の方も来られます。毎年地域で、取り組んでおられる行事は幾つもあるんですけども、(その中に、子どもはほとんど来ないのですが、) 地域の高齢者の方がこれほど来られるんだと思うような行事もあるんですね。

加堂議長 どういう行事ですか。

中村委員 カラオケ大会のような行事が多いですし、観客の方も同様です。毎年やっている行事ですが、毎年増えていっているんです。ということは、高齢者の数がどんどん増えている、リタイアされている方が増えているということあるけれども、年中行事として広がっているのかなとも思うので、市全体の行事も必要ですけども、地域からどんどん広げていくということも大事だと思うので、その行事は行事として大切にしながら、それに今度、子ども世代を取り込んでいくということができればいいなと思っています。

西田委員 私はボランティアの団体に入っているんですけども、遊びは皆さん、たくさん高齢者の方は来られる。でも、地域を支援するボランティア活動にはなかなか参加してもらえないという現状が、非常に団体で苦勞しているところなんですね。それはもうひしひしと、だからマージャンのクラブとかゴルフとか、そういう遊びにはたくさん来られます。会員の方。でも、いざ、例えば子育て支援でこういうところでボランティア活動をお願いしますといたら、希望者が非常に少ないと。だから、それを採配していくのに、ボランティ

ア団体、責任者は苦勞しているんですけどね。だから、やはりボランティア精神の啓蒙教育というか、それを小さいときからずっとしていかなければ、成人になってしてもなかなか意識が湧かないですね。私は生きがい創造学園でして、生きがい創造学園はちょうど団塊の世代の人たちが高齢者になった65前後の人たちが60%、今は70%近くを占めますが、そういう人たちは自分の暇な時間を何かに使いたいとかいう意識は持たれているけれども、その人たちのそういう意識を育てていく、つなげていくシステムがないんですよ、市に。私は生きがい創造学園ですとそれを強調してきたんですけども、市としてもそれを支える次の施策を考えていただきたいということは言っていたんですけども、確かに塊としては団塊の世代の人たちが何かしたい、手持ち無沙汰、元気、でも何していいかわからないという人が多いです。生きがい創造学園を一度見学されたらわかると思うんですけども、540人ぐらい受講していますので、結構たくさんの方が受講しているんですけども、なかなか地域の活動に参加しようという人たちが少ない、そういう現状があります。ごめんなさいね、自分のことをお話ししまして。

加堂議長

高齢者の方は、我々もそういう役目ですけども、そういういろんな講座を受講されると。されるけれども、そこからもっと地域に還元するとか、そういうことがまた難しいわけですね。

西田委員

そうですね。だから、できるだけ私も責任者をしていたときは、例えば園芸を王仁公園という府の施設を使ってしているんですけども、その後、枚方公園のボランティアをすとか、そういうのにつなげていってほしいということで、あとお話ししてくださいとか言っているんですけども、1人か2人ぐらいしか参加しないような状況ですね。1クラス大体30人受講していますので、21講座ぐらいありますから、結構な人数が受講しています。そういう現状がありますから、だから社会教育はもっとそういう教育もしていないと、地域のいろんな活動とか、それにつながっていかないのではないかなというのと、もう一つの問題点1でも、生産年齢人口が非常に少なくなる。その原因は何なのかということですね。結婚する人たちがすごく減っているし、出産率がなぜ減るかという、結婚率が減っている、結婚年齢層が高齢化している。そこら辺ももちろん若者の就労ですね。収入が少なくて結婚できないということもあるでしょうし、いろんな原因があってこれが生まれているので、そこらあたりでは、考えずにすっといけるのかなというのを感じましたね。

加堂議長

嶋田委員、何か地域とか社会でもいろんな活動をしてもらって、そこでの皆さんの参加とかいうのがあると思うので、そういう中でご意見どうですか。

嶋田委員

若者代表として。皆さんおっしゃるとおり、僕の周りでも、僕も40前ですけれども、結婚しない人がたくさんいるんですね。なぜ結婚しないかという、やはりお金がないと。で、したからといって給料が取られて、子どもができて、実際お金がないというのが一番の原因だと言っていました。何をすることもお金がかかるというところで、先ほどの資料にもありましたように、2060年には1人が1人を支える時代ということになると、多分こういう社会教育というか、ボランティアとか、そういうのを言っている時代ではなくて、もっと大変な時代がやってくるのではないかと。ヨーロッパはたくさんいろいろな政策をして、我々青年会議所でどうやったら子どもたちが増えたりとか、同じ世代の人が豊かに過ごしていけるかというのを、日々話をたくさんしているところですが、諸外国を見るといろいろ法整備があって、一番は、社会教育からちょっと外れるんですけれども、補助があったりとか、市によってはこれだけ補助がもらえる、手厚い補助がある。だから子どもが産みやすい環境とか、私の奥さんは子どもができにくいんですね。1年間でお金が100何万円かかるみたいです。100何万というのは健康保険から出ないですね、不妊治療は。できない人というのは、私の奥さんの友達にもたくさんいるみたいで、欲しくてもできない人もいますし、晩婚化しますので、そういうところの社会制度と、先生がおっしゃったように、高年齢化社会、高年齢というのを何歳に定めるか。皆さん、うちの会社の人でも、60、70ぐらいでも全然元気で嘱託で働けるので、やはり生産をしてもらって、ある程度自分で自分を、半分は支えるということをやっていくと。そうになると、僕らもそうですけれども、子どもを通じてそういうコミュニティに参加するというきっかけが多いです。どちらかという。子どもが増えれば、僕らも出ていくことも多いです。どちらかという。子どもが増えれば、僕らも出ていくことも多いです。多分僕が結婚していなくて、マンションに住んでいて、玄関ドアを叩かれて、「朝掃除しに来てください」と言われたら、多分居留守を使うと思うんですよ。だけど、子どもとかを介してやると、きょうは子どもが新聞を持っていくとか、何々ちゃんが来るからといって、積極的に、僕も小さいころは行っていましたので、僕が行くということは母親も来ていましたし、必然的に出るということが増えていたので、子どもをたくさん増やせる環境と、先ほどもおっしゃっていました、年齢がいった方に、僕らも枚方市に住んでいて、住みやすいと僕は

ずっと住んでいるから思うんですけれども、他方、他市から来ている人もたくさんいるので、枚方のよさとか、こういう歴史とかというのを、先輩に聞く場、寺子屋みたいなのがあると、若い人たちもここで子ども産んで住みたいなという環境になるのと違うかなと思うんですけれども、子どもが増えるような施策を何か、話がちょっと大きくなるんですけれども、考えてもらわないと。

西田委員        どこでしたか、鹿児島かどこかにそういう村がありますね。村全体で子育てして、すごく若者が増えているとテレビでやっていました。

嶋田委員        そうなると、コミュニティも活発になるし、多分おじいさんとか年いった人も、子どもが呼びに行ったら来るとか、年寄りが年寄りを呼ぶんじゃないくて、子どもがお年寄りを誘いに行くとか、今とは違う形になると、もっと参加する人が増えて、ひとり暮らしの人とかももっと出やすくなるのと違うかなと思うんですね。

加堂議長        そうですね。少子化、子どもを増やすということは枚方市だけで終わってしまうことではなくて、日本の大きな課題だと思いますし、確かに学生を見ている、なかなか結婚はできないような感じだと思いますね。

志保田委員     全国的に見たら、さっきおっしゃっていたように、どこかの村にぎやかな、そういう補助をして若者を呼んで村づくりをしているというのはありますね。それは、出資して、土地代をただにするとか、むしろ何かを提供して住まわせている、そういう感じがあるんですけれども、安倍内閣の方針の中に特区制というのがありますね。だから、そういったものを枚方の中でも特区という感じで、特に社会教育特区とか、生涯学習特区とかいうので、全部を並べてやることはつらいですから、どこか実験的にてこ入れしてアップしていくような、そういうことを考えていただいたらいいかなと思うんですね。

今、伊加賀かどこかで、新しい開発をしていますよね。枚方公園のほうで。ああいったところに、果たして社会教育の拠点があるのかどうかということを見ていただいて、むしろ行政から進んでそういうものをつくっていただいて、枚方は幾つも目立った大きなベッドタウンがあるわけですね。それを現在てこ入れしていくのがしんどければ、新しいところに何か提供していくとか、特区化していくということも考えてもいいのではないのでしょうかね。

西田委員	枚方の府営住宅、市営住宅、住宅公団、たくさん空き家がありますよね。そこへ若者を呼ぶ方法、何か方法がないのかなと。
加堂議長	<p>地方創生ということで、安倍内閣が言いましたね。担当大臣に石破さんがなって。でも、そういう意味では予算もつけるわけですね。ところが、受け皿があまりまだないと思うんです。特に経済的に発展が見込める先進のところと、逆に過疎が進んで困っている、私が住んでいるところもそうなんですけれども、そういうところではわりと積極的にプランを立てていますね。でも枚方市のような、何とかうまくいっているところは、まだ地方創生というプランに手を挙げているところは多分ないと思います。アイデアは難しいところです。もし出せたら、一番たくさんの人に影響する地方創生特区として、全国的にも注目になることは間違いないと思います。ただ、案がなかなかないですけどね。</p> <p>それから、ほかに、話が広がり過ぎましたので、もうちょっと締めたいと思いますので、何か今までの議論の中でご意見ないでしょうか。</p>
服部委員	一番最初に言った、別に言葉じりをどうのこうのではないんですけども、13ページのところで、少子高齢化社会がもたらす問題点というふうになっていて、問題点の2のところで、根底を支えている地域コミュニティの衰退となっているんですけども、少子高齢化社会だから地域コミュニティが衰退してきたのかなという疑問かなという感じで、最初ちょっと言ったわけです。むしろ、皆さん方おられて恐縮ですけども、中間層あたりのところに問題があるのと違うかなと私は感じています。
西田委員	中間層というより全体ですよ。皆さんの意識が、コミュニティの意識がないんです。つながりがなくなっている。地縁というのか。子どもたちでやっとなりが支えられているけれども、それ以上になるとつながりがだんだん薄くなってきている。お年寄りだけでもない。お年寄りもそうですけれども、成人層もそう、全体ではないかな。子どもたちもちょっと成長するともう塾、塾で、つながりが薄れていっているし。社会全体の社会教育……。
加堂議長	そうですね。
服部委員	間違っていたらごめんなさいね。先ほどハイキングでいわゆるお母さん以下が来ないですよ、子どもが来ないですというのは、勝手な解釈かもわからないけれども、おそらくその年代のお母さんとか

お父さんが反対しているのと違うかなど。そんなしんどいところ歩くのやめときやと。高齢者の人は自分で、仕事もないものだからどんどん来られるけれども、たまの日曜日に何でそんなところに行かないといけないのか、寝ときとか、その辺の雰囲気があるのと違うかなど。これは根拠はないので、何とも言えませんが、そんな感じがしています。見事に、ウオーキングの分野についていうと来ないですね。来られませんね。

石塚副議長 以前は来られていたんですか。子育て世代の方は。

服部委員 今と比べたら多かったように思いますね。

石塚副議長 子どもさんも忙しくなっていますものね。

服部委員 それもあるかもわかりませんね。塾だとかいろいろあるので。

加堂議長 先ほどの話で、コミュニティの話ですね。自治会の加入率が、枚方市はまだ70%台をキープしているということで、この数字が高いのか低いのか、中身を知らないといけないんですけれども、若干年々減っているということは大きな問題ですね。だから、志保田先生がおっしゃったように、マンションでほとんど参加する人がいないということが、少しずつ出ていくとそれがもっと増えていくわけですからね。そういう意味では、もっと問題にしたいと思いますけどね。

それから、中村委員がおっしゃったように、小学校区でいろいろされるときに、PTA、学校、子どもだけでなく、それにつられて地域が動いていくということを感じますので、その辺の仕掛けというものを、社会教育として、市としてどういう点が把握できていて、それをどうしようとしているかということ、これからは検討してもらったほうがいいと思うんですね。

志保田委員 ちょっと西田委員に質問したいんですけれども、講座をやっているとおっしゃったんですが、どういう講座をやっておられるんですか。

西田委員 パソコンとかウクレレとか編み物、書道、水彩画とかいろいろ。

志保田委員 どういうベースでやっているんですか。つまり誰がやっているんですか。

西田委員	市の高齢社会室の事業ですけれども、それをNALCというボランティア団体が委託を受けて、そこから私が、たまたまそういう仕事をしていましたものですから、責任者で行って、十何年間させていただいたんですけれどね。最初は5講座ぐらいで始まったんですけれども、今は21講座ぐらいしていると思います。
志保田委員	それなんか、今見ても最大の武器のような気がしますね。もっと当局も応援してあげるといふか。
西田委員	ほんとうに苦勞して運営させていただいてきました。少ない予算の中で講師を呼ぶのも苦勞しました。開設以来7,000円でずっと。講師の先生が助手を連れてこないで、30人の編み物教室なんてできないんですよ。助手を2人連れてきて、自分がいただいた報酬でアシスタントの方にお足をお支払いしておられたんですね。それはあんまりだからと、やめるときに、これだけは出してあげてくださいと、ちょっと、7,000円から9,000円に上げていただきました。あとの先生は手づるを使って、大学を退官された先生方に、ボランティアでお願いしますと知り合いから頼んで来てもらったりとか、大体退官された先生方を相手をお願いして、ボランティアでせいぜい1万円までしか出せませんので、そういうので来ていただいたりして、全体を運営させていただいていました。だから、運営にはやはり人脈がないとできないなと思いつつ、ほんとうに苦勞しました。あちあち、私は枚方市に住んだのは長いんですけれども、仕事は枚方市でしていないんですね。京都だったり兵庫県だったり、最後は宝塚でしたから、宝塚から講師を呼んで来ていました。特に英語の先生なんかなくて、宝塚の国際交流から呼んでいただいたりとかずっとしていましたけれどね。そういう形で、ほんとうに運営には苦勞しましたがけれども、でもそこで学ぶ人たちというのは、ちょうど65歳から70歳の間が多いものですから、まだ健康なんですね。何かしたいという気持ちは持たれても何をしたいかわからない。でも、自分の楽しみも維持したいと。そういうバランスの中で活動を求めておられるので、どういうふうにしたらいいのかなというのは随分考えながら、例えば音楽なんかしている人だったら、施設の慰問を紹介して、知り合いの施設に頼んで、こういうことができるからということで行っていただいたりとか、マジックなんか今、ずっと広がってきていますね。小学校の土曜日のスクールとか、そういうところにこういうのがあるからということで紹介して、小学校から依頼されて、ずっと受講生のOB会が行っていますけれども。なかなか、つなげていくことが、学んだことを生かして地域で活動できたらいいんですけれども、そこを支えてい

くのがなかなか難しい。それで、自分たちが学習しようと思ったら、会合するお部屋がない、補助金も出ない。自分たちでお金を出してするというので、ちょっとそれは補助費を出してもらえませんかということで、高齢社会室にも言ったんですが、なかなかそれはできませんということで、自分たちの、わずかな年金の方もいらっしゃるし、豊かな方もいらっしゃる。いろいろな人たちの集まりですので、あまり金額が張るとあとの活動に影響する。

志保田委員 その組織は今もあるわけですよ。知識がなくて申しわけないんですが。

西田委員 この2階でしています。どうぞ見てください。朝早くから、10時からの講座でも9時過ぎにはもう来られますね、熱心で。80歳、90歳の方も来られるし、60歳の方も来られる。元気な方は、90歳の方は何人かいらっしゃったと思うんですね。1年間、1講座が月2回ですけどね。来られて勉強されています。熱心ですよ。質問されて、講師の先生が、こんな熱心な人は知らなかった、びっくりしましたと言われるぐらい、皆さん一生懸命されていますね。それが楽しみといいましょうか、生きがいになり、仲間づくりになっていますね。そこを中心に、自分でもああ、そこを大事にしないといけないなど、仲間づくりをしてくださいと、OB会をつくって後々も仲間で、出ていくことで認知症の予防にもなりますし、健康で生活できるようにと支えていましたけれども、多分後任も、それを続けていってくれていると思います。ごめんなさいね、私のことばかり言いました。

志保田委員 いえいえ、代表的な例ですばらしいですね。それを伸ばしていただくなり。

西田委員 市の事業としては大きいですね。高齢者の生きがいづくりといいましょうか、健康の維持と生きがいづくりということでしている事業としては大きな事業だと思います。広報で毎年皆さん来られます。540人近い人が中で、皆さん次は、来年は何講座を受けようという形で、順繰りいろんな講座を受けていかれていますけれども。

加堂議長 高齢者の人に対するいろんな講座とか、そういった方々の生きがいとか、元気さに貢献しているということは非常にいいということにはわかったと思うんですけども、それを地域づくりということにもっと広げるときに、その他の手だてがあるかということですね。

大分時間がたってきましたけれども、中村委員は、特にPTAとか、違った世代の人たちの仲間づくりとかの動きはどうか。

中村委員

そうですね。地域の行事の中でPTAの担当する行事というのが幾つかあるんですね。うちの学校は特に人数が少ない学校ですので、PTAとしてもそれに参加しますというときに、役員だけで何とかしましょうではなくて、学校のPTAとしてかかわっておられる方みんなに、全員参加というのを呼びかけておられるんです。それによって、今年は役をしたから、この年は参加しますよね。そうすることによって、全員ではないのですが、次の年、もうPTAの役からは外れていますが、地域の一員としてそこに参加される方がいないわけではなくて、去年自分もやったからちょっとわかるのでまた参加してくださる方もおられます。今年やったことはその次また新しくする人にとってみたら全く初めてのことで不安なことも多い中、少しでも知っている人がそこにいてくれるということの安心感で、またそうしてもらって助かったよねということが次につながるという形になっていることもあります。そして、地域の行事の中に参加することによって、こんな行事があったのかと。また防災とかになったら愕然と減るのですけれども、そこにも、あの人の顔がまたあるわというようなことでつながっていけることもあるので、そういう地道なことというのは、学校からも呼びかけと同時に、子どもを通してとか、PTAでやってみてよかったからとか、そういうことのほうが後々つながっていくので、そっちが広がっていくようにしていけたらなと思います。

服部委員

PTAの話が出ましたけれども、毎年多くの方がPTAの役をされますよね。もちろん、保護者全部の会議だけれども、役されていた方も相当数おられる。役が終わったら、何となくそこで切れてしまうような気がしておったんですよ。私も小中高とやらせてもらったけれども、終わってしまうと、もうそこでなくなってしまうと。あのあたりを何かもうちょっと生かしていけるような組織がつけられたらなというような感じはしておったんですけれども。もう今となっては年で、全体的にあれですけれども。もったいないという気はしていました。

中村委員

OB会みたいな形にはなかなかないですけども、そこで生かせると思うのが地域の行事なんですね。例えば、地域の行事には夏祭りみたいなものもあるんですけども、そこにはPTA主催でやるものもあるんです。その中にOB会としても入ってもらえる。そうすると、去年こうしてこれが大変だったから、あらかじ

めこうしておいたらいいよという情報ももらって、次の年は今年よりもスムーズに行くというような形になっているところもあるし、今、土曜日のふれあい事業、いきいき広場というのがあるんですけども、昨年度PTAの役をされた方がほぼ全員、(卒業生もいますけれども、) スライドして次の年にはそこの地域行事であるふれあい事業の中心になってやってもらえるという繋がり。それは1年限りで終わりではないんですね。2年できる方は2年していただくと。そういうことから、地域の人たちとのつながりが広がって行って、今度はコミュニティの主要なメンバーにいつの間にか入っていらっしゃるような方もいらっしゃるので、コミュニティのなかなか後継者が出てこないということも、そういう行事を通して、何年か参加して一緒にやっているうちに、気づいたらそこに入っているみたいな形になっているのが理想かなと。そうなりつつある部分もあるので、それは大事にしていけたらいいなと思います。

加堂議長 P T Aを通じて、いろんな校区の活動についての話だと思います。嶋田委員、もう一回、青年会議所のほうで、市全体の中でいろんな活動をされると思うんですけども、そういう点で、地域のコミュニティに関係するご意見とか体験をお願いします。

嶋田委員 ちょっと変わって申しわけないですけども、僕はさっき西田さんのお話を聞いて、こういうところでされていると言っていましたよね。ここに、90歳の人とかここに皆寄ってくるんですか。何かに乗って。

西田委員 できるだけ公共交通機関を使って、バスで来てくださいと。駐車場はあまり使ったら困るのでということ。

嶋田委員 僕が何でそんなことを聞いたかという、みんな地域に学校というのがあるではないですか。学校も人数が少なくなってきたので、学校の部屋を借りて、そこで高齢の方々が何かをするということで、一緒に、授業をしないでもいいと思うんですよ。子どもと同じ箱の中ですということ、また何かつながりとかできたらおもしろいのと違うかなと。一緒のことをやる、学校でただ単に部屋を借りてやるだけなんですけどね。それだったら地域の人も行きやすいし、きょう学校のここで手芸教室やっているからどうかとかいうふうにやると、何か起きそうな気がするんですね、次の一歩が。例えば、地域の方がより参加するようになったりとか、学校の中で子どもと触れ合う。年配の方は顔を合わすだけで、あそこの人だなとか、あのおばあちゃん来ているんだなとかいうことで今の仕組みはそ

のままでもいいと思いますが、場所を変えるだけで、またちょっと違う形になってきたりするのと違うかなと。

西田委員

ここですると非常に交通が不便なので、ほんとうにいろんなところとするほうが、その地域の人が参加しやすいということはあるんですよね。ただ、市のお考えが非常に、例えば、総合講座で講演会を開催するんですね。その講演には生きがい創造学園の受講生だけでなく、一般の高齢者、市民も参加できるようにということで、市民会館でしているんですね。市民会館がだめなときに大学を使おうと思って交渉まで済んでいたんだけど、やはりそれはやめてくださいということで、使えなかったんですが、そういうふうに市の考え方がありまして、市がどう考えられるかで場所はいろいろなところとするほうがいいのかないかなというので、ちょっとずつは変えています。楽寿荘でしたり。

嶋田委員

各コミュニティでそういう催し事を学校でやったりとかね。小学生とか中学生も避難訓練とかをするから、そこに来ている人は一緒にすることによって、顔見知り、コミュニケーションがとれたりとか、コミュニティが広がったりとか、我々も若者と高年齢の方と、また小中学生というのを融合させるというのがすごく難しいので、いつも年齢を絞ったテーマで、自分たちの会費で例会を開いて、市民の人を呼んでいるんですけども、ターゲットを絞らないと、広くいくと全然人が来ないですね、逆に。だから、若者向けだったらこういうプロ野球選手を呼んでみたりとか、どうしても著名な人を呼ぶと客寄せパンダだけで、僕らが言いたいことをなかなか発信できないので、人は集められるんですが、では何を伝えられるのかというのが難しいので、どこかコミュニケーションがとれる場所というのを、西田さんのところがやっておられる活動と、今はいっぱい枚方市で、ほかの市よりもたくさんいい活動をやっている。僕は青年会議所を通していろいろな市とか違う都道府県にもよく行くんですけども、枚方市は結構すばらしい市だなと思っているんですね。田舎に行っても、同じような40万、30万都市に行っても、コンビニはたくさんあるし、住みやすいし、コミュニティもしっかりしていますし、朝登校するときにはシルバーの人が立っているし、なかなかないですよ。だから、それをつなぐ仕掛けというか、ちょっとしたことが集まるのと違うかなと思うんですけどね。

西田委員

そうですね。これからどうしていくのが望ましいのかということですね。

加堂議長 きょうはなかなかいい意見がいっぱい出たと思います。ほかの皆さん、おっしゃりたいことがありましたらお願いします。

國光さん、大体の流れはわかったと思うんですが、これからの高齢化社会における社会教育という大きなテーマで、いろいろ資料の発表がありまして、それについては意見をもらっていると。それに基づいて、次のご意見をいただきますので、何かありましたら。

國光委員 地域コミュニティの衰退ということが今ちょっとお話に出ていたと思うんですけども、私がいる楠葉西中学校、樟葉西小学校のコミュニティ協議会にずっと参加しているんですけども、なかなか盛んに活動はやっています。月1回協議会、夜の会合をやっているんですけども、ほぼ全員毎回集まってきて、結構盛んにやっている地域だなと思っているんですけども、ただよそから移ってこられた校長さんとかに聞いたら、かなり地域によって温度差があるんだなということは課題だと思っています。それと、ここにも出ていますけれども、本校区の樟葉西小のコミュニティにしても、担っておられる方が、わりとずっと同じなんですね。かなり年配の方で、もうずっと引き続きやっておられる。次の世代への引き継ぎというんですか、その辺が今後の課題なのかなと思います。ただ、コミュニティ等については、いろいろと市の支援、財政的な支援とかそういう部分もありますので、運動会とかもほんとうに活発だし、そこには子どもも大勢参加して、すごく盛り上がっている地域かなとは思っています。そういう中では、年寄りも子どもも一緒に活動していますし、そうやって成功している地域もあるのかなと思っています。

加堂議長 ありがとうございます。皆さん、それで大体よろしいでしょうか。

きょうは、高齢化社会における社会教育という大きなテーマで、非常に詳細な説明もありました。それに基づきまして、皆さんいいこと、あるいは問題点、いろんな意見がありました。これに基づいて、また今後の話をしていきたいと思いますので、よろしく願います。

そういうことで、一応案件1は終了しました。

次に、案件2、その他ですけれども、事務局から報告事項はあるでしょうか。

事務局 先ほどの案件1につきましても、また各委員からいただいたご意見を集約しまして、次回の会議でまたご確認いただいて、その後先に進んでいただきたいと思います。解決に向けて社会教育の果た

す役割について、各委員のご意見をまた次回お伺いしたいという方向でいきたいと思えます。

今回ご検討いただきましたご意見につきましては、こちらのほうでまとめさせていただきます。次回の会議の日程ということになるかと思えますが、後日改めまして、次回の日程調整のためのアンケートをいつものように実施させていただきます。それにご回答いただきまして、議長、副議長の日程等協議させていただきました上で、またご案内させていただきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思えます。

以上でございます。

加堂議長            それでは、以上をもちまして、本日の社会教育委員会議を終了します。

皆さん、ありがとうございました。